

リフォーム前



リフォーム後



車いすで生活されるお母様が一人でも使えるよう、バリアフリーの手洗いを計画しました。お母様は、「夜中のトイレや朝晩の歯磨きが一人で出来ることが何よりうれしい」と。奥様は、「そのうち自分たちにも使い安いトイレになるんです。」と自信をもっておっしゃいます。

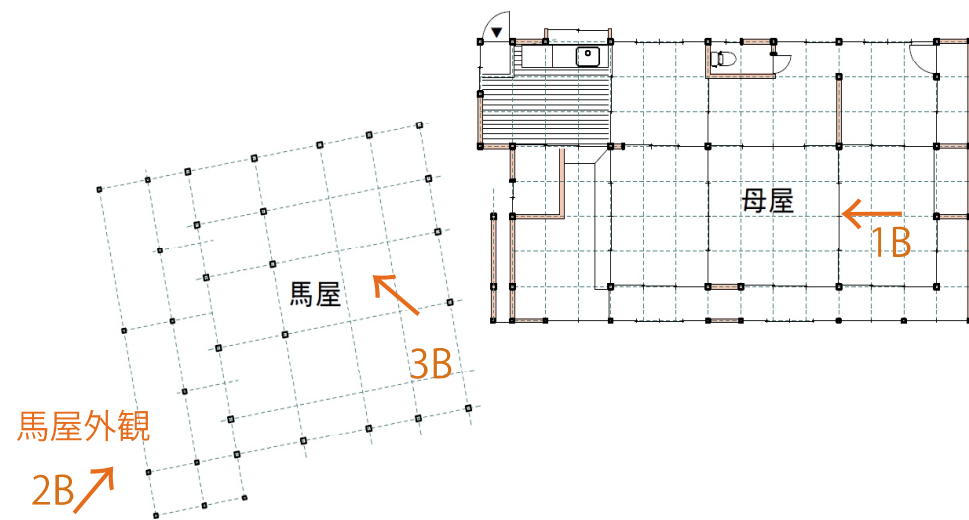
薪ストーブを楽しめるリビングダイニング。母屋の構造材は、水洗い、柿渋・ベンガラ調色の古色塗り。

馬屋は、屋根、外壁、2階の床の架け替えを行い、1階は、農作業や味噌、お茶等を作るための多目的スペース、2階は、ご家族や友達が訪問した時の宿泊場所として計画。現在、毎週、ご近所の方が先生になって、編み物教室やハーモニカ会など、気楽に訪ねて来られるコミュニティ施設的なスペースになっている。この会には、車いすを利用されているお母様も参加されるそう。

[3A] 馬屋2階 多目的スペース
母屋の建具を利用しました。



リフォーム前平面図



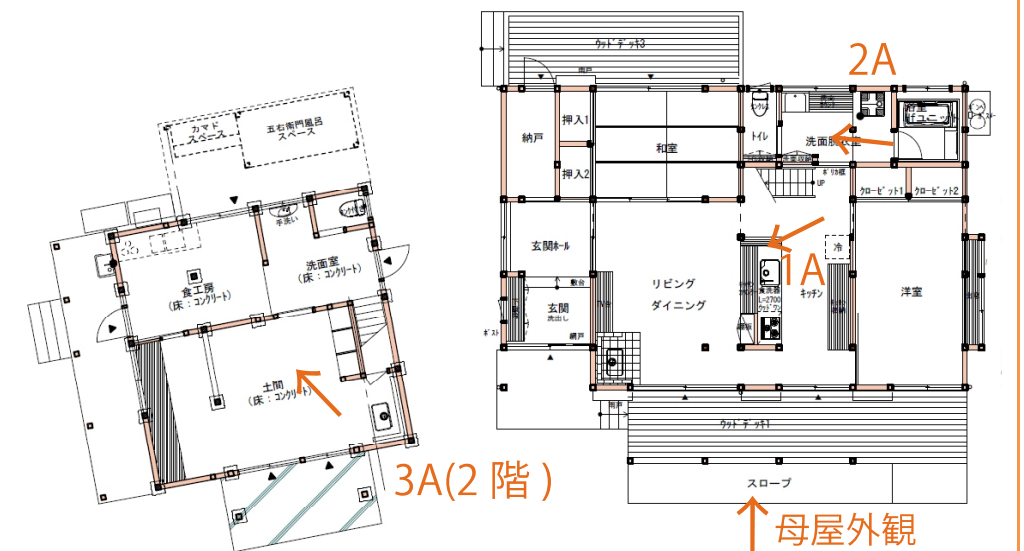
設計施工のポイント（増改築等の工夫）

定年退職後の生活拠点として、古民家付の土地を購入。当初は、解体処分して新築の住宅を作る予定だった。この古民家が、「集落の景観の一部になっている。壊すのは、これから住む集落の方々に対して申し訳ない。」と感じ始め、この古民家を利用できないかという相談から計画が始まった。

外観は、瓦が落ち始め、いたるところ、柱・梁が落ちているボロ屋だったが、内部に入って調査してみると、築150年以上の古民家は、骨太の構造材が力強く、詳細に調査を行うこととなった。幸いにも、シロアリ・腐朽の被害もほとんど無く、一部、桁の架け替えが必要だったが、古材を活かす形の計画が可能となった。

- 床高の高い古民家で、車いす生活が出来るようスロープを設け、洗面、トイレ、浴室もバリアフリー対応。台所、リビング廻りのスペースも、家族みんなでゆとりを持って暮らせるユニバーサルデザインとした。
- 退職後のご夫婦、車いすを利用されるお母様の生活を考え、温熱的なバリアフリーを考慮。充分な断熱性能を確保し、ヒートショック等の心配のない生活環境とした。
- 温熱的な性能も含め、バリアフリーにしたことで、これまで介護が必要だったお母様の夜中のトイレや洗面がひとりで出来るようになっている。
- 断熱性能を確保したうえで、自然エネルギーを有効利用するパッシブデザインの検討を行い、空調機等を出るだけ利用しない生活を目指している。住宅設備対応としても、太陽光・太陽熱を利用するダブルソーラー給湯システム、薪ストーブを設置。環境性能を高めた設計を行った。エネルギー削減率 132%

リフォーム後平面図



応募者

代表取締役
村田 義弘

設計者

(株)建築工房 自然木

施工者

(株)建築工房 自然木

築年数

150年

構造

在来木造
(古民家)

建方形式

一戸建て

竣工

平成26年 9月

工事期間

12カ月

工事費

3,000万円

リフォーム
内容

築150年の古民家を車椅子生活の出来るゼロエネ住宅に断熱改修を行ったヒートショックの心配のない住まい。「住宅のゼロエネルギー化推進事業」を利用した住宅改修です。